

正解のない?! 問いに対して



日頃は「子供の居場所づくり事業」にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

唐突ですが、皆さんも一緒に考えていただいてよろしいでしょうか？

当事業の中で、よくある光景なのですが、サッカーをしているグループのすぐ近くで、野球のグループが突然試合を始めます。運動場には他にドッジボールをしている子や鬼ごっこをしている子などたくさんの子たちが思い思いに遊んでおり、遊び場所を変える事もままならない状況です。こんな時、**皆さんなら全員が納得して遊ぶために、どのように解決しますか？**

例えば、サッカーボールで野球をするキックベースボールを提案したり、2塁ベースを抜いて少ない場所でも野球ができるよう三角ベースボールにしたり、工夫次第でお互いが衝突しないように遊べます。

当事業では地域の大人たちがサポーターとして子供たちの活動を見守っていますが、明らかに危険な場合を除いて、子供たちの遊びに口出し手出しをしないようお願いをしております。また、遊びが成立しないからと言ってルールなどで遊びを誘導することはいたしません。上記の事例でサッカーや野球の場所を大人が決めてしまうと、概ね子供たちはその通りに従ってくれますが、自分たちで工夫するチャンスを逃してしまいます。私たちがこの事業を通して子供たちに学んで欲しいのは、この先、自分の思い通りにいかない場面に出合った時に、相手の主張や立場を汲み取り（意見を聞くことができ）、自分の考えも伝える中で、時には妥協をし、時には新たな提案をすることで解決することができるという事です。例え些細な事であっても、その体験は、将来、社会に出た時にきっと役立つものだと思います。

さて、実際に私が事業の中で見かけた光景ですが、どうやって解決するのか黙って眺めていると、野球の子たちはバットを置いて、手打ち野球を始め出しました。こちらが意識していないと、つい見逃してしまう子供たちが自ら出した答えですが、もしかすると、彼らの気持ちの中では、自分たちで正解をひねり出したという実感を得る事ができたのではないのでしょうか。

今、進めている当事業そのものにおいても、実は正解が用意されている訳ではありません。子供たちの遊び場不足の問題、育成センターの待機児童の問題、学校に負担をかけずに実施するための運用の問題・・・。子供たちの放課後を取り巻くたくさんの課題がある中で、**いかに子供たちの育ちにつながる居場所を提供していくべきなのか。正解を導き出すために、これまで試行錯誤を重ねてきました。**

今年度より、新たな提案として、子供の居場所づくり事業の新方式「(愛称)放課後キッズ」を開始します。これまで試行を進める中でいただいた様々なご意見やご要望等を踏まえて参加方法や実施時間を見直します。今後、新方式の実施校を順次広げていく(既存実施校は順次移行していく)予定ですが、一人でも多くのご家庭に「正解」と判断していただけるよう、さらに取組みを進めてまいりますので、今後とも当事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



放課後事業課 課長 中尾篤也